板書例

1　**第一段**〈行為・展開〉

アイロンがけの最中にシャツの青が消えた
…視力がどうかしてしまったのか
明るい部屋に移動してよく見てみた
…変化なし・「とりとめのない白」
寝室のクローゼットの中を見てみる
…青いものはすべて「歳月に洗われた見知らぬ人の骨のような白」に変わっていた。
（ガールフレンドと行った）ハワイ旅行のアルバムを出して見た
…青い海は「シベリアの氷原のような茫漠とした白い広野だった」

青が消えたあとの白は空虚で、よそよそしい印象

その時の「僕」の状況を整理すると
〈時間〉一九九九年一二月三一日（大晦日）の夜
〈場所〉僕の自宅
〈状況〉
・僕は少し前にガールフレンド（恋人?）とけんか別れをして、ものすごく落ち込んでいた。
・新ミレニアムを祝うパーティーで浮かれ騒ぐ世界中の人間
◎僕の印象↓「くだらない」…そこで、ひとりで家に閉じこもってアイロンをかけていた。そして青が消えた。